

12万円と高価な新型FOMAの魅力を探る

FOMA SH2101Vは ビジュアル&コミュニケーションの最強ツールだ!

NTTドコモの第三世代携帯電話“FOMA”のラインナップに、電話機でありながらPDA機能を搭載した異色の製品「FOMA SH2101V」が追加された。3.5インチのタッチパネル型ディスプレイにキーボード、マイクやスピーカーなどを搭載した電話機本体と、受話器として使うワイヤレスハンドセットで構成される。本体にはカメラを装備し、テレビ電話としても活用できる。ビジュアル&コミュニケーション面でより強みを発揮した本製品のお買い得度をあらゆる角度からチェックしてみよう。

text : 編集部 photo : Tsushima Takao

[実物大]



[Review]

キーボード付きのPDA一体型FOMA

1台2役でリモコンにも使えるハンドセットが特徴

かつてのポケットボードやコミュニケーションボードを思い出すキーボード付きPDA一体型FOMAがついに発売された。

この手の製品はこれまで通信ケーブルを使って携帯電話を接続したり、PHS内蔵で電話のときにはイヤホンを付けて会話したりするのが普通だった。しかし、FOMA SH2101VはBluetoothを採用して、ハンドセットをワイヤレス化した。これなら、本体をカバンに忍ばせて、胸ポケットに挿入したハンドセットだけで電話ができる。しかも、このハンドセットは、受話器になるだけでなく、ハンドセットの液晶画面のテンキーを使って直接ダイヤルできるし、メールの送受信や音楽プレイヤーのリモコンにもなる。ハンドセットの中にもアドレス帳のデータ(電話番号のみ)を入れられるが、本体のアドレス帳を使いたい場合は、本体からハンドセットへデータを転送してコピーする必要がある。

デザインは、シルバーメタリックな配色と適度な重さ(本体約280g)とで、安っぽい感じはしない。ドコモショップの小売価格

は新規契約で11万8,000円だ。さすがに見ただけで買う値段ではないだろう。しかし、その値段どおり、確かにこの製品は高性能だ。デジタルカメラが付いた「ビジュアルタイプ」のFOMAのため、テレビ電話としても使える。中身は、シャープのザウルスをベースにして作られているので、ザウルスを使ったことのあるユーザーには使いやすいだろう。本体の液晶画面は付属のスタイラスペンで操作できるタッチパネルになっている。また、26万2144色のTFTカラー反射型液晶は、最新のザウルス製品よりも鮮やかな色合いだ。

起動したときに立ち上がる画面(左ページ写真)をデスクトップと呼び、iモードやインターネットのブックマーク、iアプリなどを一発起動できるアイコンをデスクトップに作成できるのはおもしろい。近ごろの携帯電話にも「デスクトップ」の考え方が浸透してきているが、これもその流れだろう。

なお、FOMAの圏外ではPDC「携帯電話と同じ番号で利用できるデュアルネットワークサービスにも対応している。



キーボード入力は、手の小さい人ならば、かろうじてブラインドタッチもできそうだが、写真のように使うほうがラクだろう。



ハンドセットは手にすっぽり隠れるほどの使いやすい大きさだ。

FOMA SH2101Vの製品スペック

項目	仕様	項目	仕様			
本体	寸法(閉時、突起部含まず)	約137(幅)×約98(奥行)×約25(厚さ)mm	ハンドセット 寸法(突起部含まず)	約24(幅)×約137(奥行)×約14(厚さ)mm		
	重さ	約280g(電池パック含む)		重さ	約43g(電池パック含む)	
	使用電源	専用リチウムイオン電池(ポリマー)DC3.7V、1000mAh		使用電源	専用リチウムイオン電池 DC3.7V、200mAh	
	消費電力	約12W(100V AC) (テレビ電話中でハンドセット充電中、AC充電器含む)		連続通話時間*1	音声、テレビ電話:約90分 (FOMA端末を充電しながらハンドセット使用)	
	連続通話時間*1	音声電話:約80分、テレビ電話:約50分		連続待ち受け時間*1	約80時間(〃)	
	連続待ち受け時間*1	約60時間		表示部	52×120ドット、モノクロ2階調LCD	
	使用時間*1*2	カレンダー連続表示:約9時間		その他	Bluetooth	通信方式:Bluetooth標準規格Ver1.1
	フロントライト消灯時	1時間あたり、検索5分、表示時間55分の割合で連続稼働:約8時間			接続端子	AC充電器端子(DC入力端子) ステレオイヤホンマイク端子、外部接続端子
	フロントライト点灯時(明るさ最小)	動画連続再生(FOMA端末ライブラリ):約180分 サウンド連続再生(FOMA端末ライブラリ):約170分			カードスロット	SDカードスロット
	適用回線(通信速度)	音声電話、テレビ電話 FOMA64Kデータ通信(送受信最大64kbps) iモードパケット通信(送信最大64kbps、受信最大384kbps) PPPパケット通信(送信最大64kbps、受信最大384kbps)		標準構成	ワイヤレスハンドセット、ハンドストラップ、電池パック、ワイヤレスハンドセット用電池パック、AC充電器、ACコード、スタイラスペン、FOMAカードカバー、保証書、取り扱い説明書、クイックマニュアル	
CPU	32ビット-RISC	機能	電話帳	約10MB+50件+50件*4		
本体メモリー(FOMA端末メモリー)	24MB(SDRAM 8MB、フラッシュメモリー 16MB) ユーザーエリア:約10MB(フラッシュメモリー) 購入時の空き容量は約10MB		iアプリ	最大200件		
表示部	320×240ドット、3.5インチ26万2144色反射型TFTカラー液晶、フロントライト搭載、感圧型タッチパネル搭載		ブックマーク	最大64KB		
カメラ機能	総画素数:35万画素(有効画素数31万画素) 動画撮影時間:約40分(横128×縦96ピクセル:ノーマルモード)3 静止画撮影枚数:約1500枚(横160×縦120ピクセル)3		画面メモ	iモード時100KB、インターネット時512KB		
			リダイヤル	20件		
			短縮ダイヤル	クイック発信5件		
			着信履歴	20件		
			着信音	メロディー・パターン:10曲+10種類、iモード対応		
			その他	iモード、SSL対応、通話中音声メモ、通話中メロディー保留、ほか基本機能対応		

1 PDC(ピー・ディー・シー/Personal Digital Cellular)日本の従来型の携帯電話で採用されているデジタル無線通信の規格。FOMAを除くNTTドコモの携帯電話やJ-PHONEが採用している。

*1 20 常温にて
*2 電池パックSH01がフル充電でセルフモード時
*3 動画撮影可能時間や静止画撮影枚数は画質設定や撮影環境などによって異なる
*4 本体とハンドセットそれぞれ、1件につき最大3電話番号まで登録できる。また本体には電話帳1件につき最大3メールアドレスまで登録できる。ハンドセットにはメールアドレスの登録は不可

[Review]

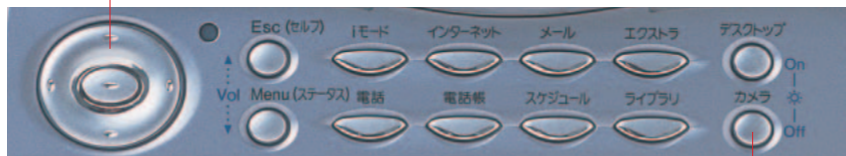
アプリケーションキーで簡単インターフェイス

一発起動ボタンでサクサク使える

FOMA SH2101Vの機能のほとんどが、写真の8個のアプリケーションキーにまとまっている。各アプリケーションキーを押すとそれぞれ対応したソフトウェアが立ち上がる。「iモード」や「インターネット」の操作は、iモード電話機とズバリ同じだから、マニュアルを見なくてもすぐに使えるだろう。強いて挙げれば、もっとも単純な電話の掛け方がわかりにくいかもしれない。電話を掛けるには、「電話」ボタンを押して、そのままテンキーでダイヤルすればいい。慣れれば簡単だ。「電話帳」「スケジュール」はザウルス同様でとてもこなれている。

「ナビゲーションキー」ケータイと同じ操作性で使える

カーソルと同様に、項目を移動する際に利用するナビゲーションキーは、中央のボタンが項目選択の役割になる。小さいうえにキーが固いため、移動はキーボードのカーソルを使うほうがラクかもしれない。



「iモード」ケータイと使い勝手は同じ



最大液晶画面ならではのアイコン化されたiモードメニューの使い方は、携帯電話のiモードとなら変わらない。

「メール」iモードとe-mailを一括管理できる



最大文字数や通信環境の異なるiモードメールとインターネットメール(e-mail)の両方が使える。メール機能の詳細は154ページ参照。

「カメラ」動画と静止画の切り替えが簡単

このボタンを押すと、カメラが作動する。ボタンを押すごとに撮影モード(動画・静止画)が切り替わる。

「インターネット」接続先を複数登録できる



インターネットの接続先(プロバイダ)は複数登録でき、そのうち現在使用中のものは画面左下に表示される。

「エクストラ」ザウルスユーザーにおなじみ



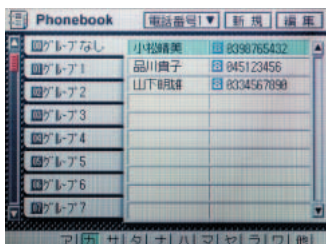
FOMA SH2101Vはシャープのザウルスをベースにした製品のため、設定環境まわりは類似している。いままではザウルスを使ったことがある人ならば容易に扱える。

「電話」テレビ電話も簡単



電話は、本体のスピーカー、別売りのイヤホンマイクのほか、ハンドセットで受けられる。テレビ電話機能は153ページ参照。

「電話帳」メールにも連動して使いやすい



フォルダーで管理できる電話帳。電話番号とメールアドレスを3つずつ登録できる。この本体の電話帳をハンドセットで使う場合は、データを転送してハンドセットの電話帳にコピーする。

「スケジュール」表示形態が複数から選べる



PIM機能は充実している。もちろんパソコンと同期させてバックアップも取れる(別途ソフトが必要)。カレンダーの表示は、この一覧表示のほかにグラフ表示や詳細表示などの3つのパターンから選べる。

「ライブラリ」多様なファイルを管理できる



動画、静止画、音声、音楽ファイル、テキストなどをここに保存して管理できる。本体に挿入したSDカードの中身もここで確認できるほか、「コピー・貼り付け」でファイルを移動できる。

[Feature]

手軽に使えるテレビ電話や画像撮影

ズーム付きの回転式カメラはすぐに役立つ

FOMA SH2101Vは3.5インチの液晶画面とカメラを持っていて、テレビ電話としても実用的に仕上がっている。操作は簡単で、相手の電話番号をダイヤルし、下画面の[A]をスタイラスペンでタッチする。テレビ電話は、残念ながらハンドセットからは掛けられない。ハンドセットがBluetoothで接続されている場合は、電話がつながってから受話器として使うことはできる。

テレビ電話の通信速度は、基本的に64kbpsで接続し、ネットワークが混んでいると32kbpsでの通信となる。FOMA SH2101Vを2台並べて相互につないで通話テストをしたところ、音質はさほど気にならないが、画像の遅れが2秒弱程度あるような印象を受けた。

このテレビ電話機能は、FOMAのデュアルタイプ端末のFOMA P2101V、FOMA D2101Vのほか、「デュアルモードテレビ電話機」の「Moppet」(NTT東日本・NTT西日本提供: ISDNテレビ電話やFOMAと通信できる電話機)に対応している。とはいえ、まだ一部の機種同士でしか使えないため、つなげられる機種がもっ

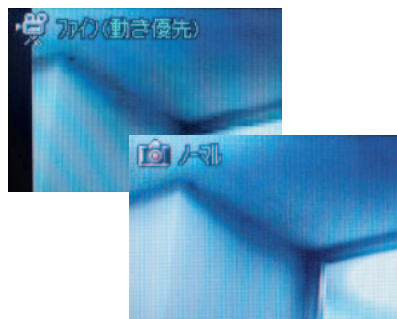
と登場することを期待したい。

テレビ電話のできる相手がいなくても、このカメラでは動画や静止画を撮影できる。総画素数35万画素のため、近ごろのデジタルカメラに比べて画質は落ちるが、このカメラの約245度の回転機能はモノを撮りやすい。気軽に撮影し、そのままメールに添付して送信という作業がスムーズに行える。撮影した動画はASF²形式で、インターネットメールの場合のみ添付できる。添付ファイルのサイズ制限を超えて長時間撮影しても、FOMA SH2101V内蔵の編集機能で部分的に抽出して小さいサイズに作り直せるため、心配はいらない。

撮影した画像は「ライブラリ」に保存される。さらに、SDメモリーカードにも保存できるため、PCとのデータ交換も容易だ。なお撮影した動画は、ウィンドウズメディアプレーヤーで見られる。このほか、「カメラ」ボタン1つで動画と静止画を切り替えられ、動画だけでも「S-ファイン」、「ファイン」(動き優先)、「ファイン」(画質優先)、「ノーマル」の4つから選べる。約3.3倍から5倍のズーム機能も搭載している。



中央にあるのが約245度回転できるカメラで、静止画で4倍、動画で5倍までズームが可能だ。



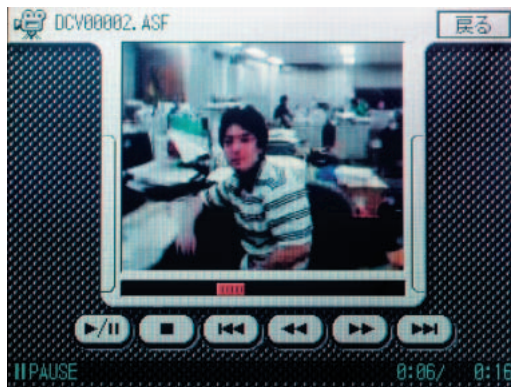
「カメラ」ボタンを押すたびに、動画あるいは静止画の撮影画面に切り替わる。左上のアイコンが目印だ。



外部メディアにはSDメモリーカードが使える。



テレビ電話は、電話番号をダイヤルしたあとに[A]を付属のスタイラスペンでタッチする。通話中に同じ場所をタッチすると、自分の画像を一時的に表示しないようにできる(左画面)。



動画は4種類の撮影モードのほか「オート」「人物」「風景」の3種類の被写体選択もできる。上の画面は「ファイン」(動き優先)モードで撮影した。

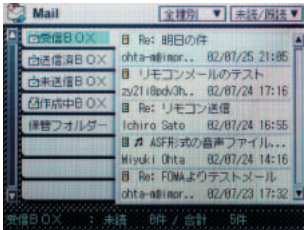
2 ASF (エー・エス・エフ / Advanced Streaming Format) : マイクロソフト社が提唱する、動画や音声、MIDI、テキストなどをネットワークを利用してストリーミング配信するためのフォーマット。

[Feature]

機動力を発揮するメール送受信機能

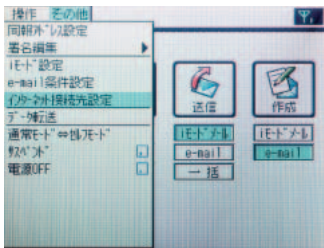
iモードメールもe-mailもリモコン受信OK!

本体の液晶表示



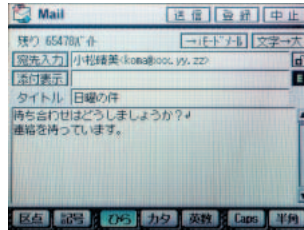
メール一覧画面 [A]

iモードメールあるいはe-mailだけの表示もでき、「プレビュー機能」を使えば、メールの内容を画面下にスクロールして表示することもできる。



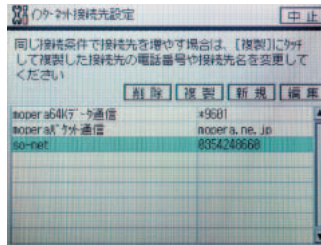
インターネット接続先設定(1) [D]

メールにかぎらず、各種の設定項目は、menuボタンを押して表示できる。



メール作成画面 [B]

作成画面の文字数は全角で最大640文字で、表示を拡大したり縮小したりできる。また、「宛先入力」は「電話帳」と、「添付表示」は「ライブラリ」と連動する。



インターネット接続先設定(2) [E]

opera以外のプロバイダーを使う場合は事前に設定する。接続先の電話番号やユーザーIDをここで登録する。



振り分け設定画面 [C]

受信メールを指定したフォルダーに振り分けられる。e-mailでは、指定した時間に自動でメールを受信する自動巡回機能もある。



メール受信画面 [F]

メールを受信するとポップアップ画面が表示される。本体を開いていると、リモコンに通知が届く。

「メール」のメニューは、「閲覧」「受信」「送信」「作成」で構成され(152ページ参照)それぞれiモードメールかe-mailかを選択する。これによって接続方法が変わり、メッセージの作成では最大文字数が変更になる(表参照)。文字入力は、かな漢字連文節変換機能や約21万語の辞書を搭載し、実際に使ってみても変換精度は高かった。キーボードを利用できる一方で、ザウルスに採用されている手書き認識機能がないのは残念だ。

メールアドレスの指定は電話帳と連動しており、設定は簡単だ。同報メールもiモ

ードメールで5件、e-mailで99件まで宛て先を登録できる。iモードメールの「Phoneto」機能をサポートするため、本文に電話番号が書かれていれば、直接電話を掛けたり、電話帳に登録したりできる。

メールの受信では、あらかじめキーワードを登録しておけば[C]自動でフォルダーに振り分ける機能もあり、迷惑メール対策にも効果的だ。

さらに、FOMA SH2101Vの便利なところは、付属のハンドセットをメール送受信のリモコンとして使えることだ。iモードメールの「センター問い合わせ」や「e-mail

受信」がリモコン操作で簡単に受信できる。残念なのは、e-mail受信のときに[E]の画面で登録し、かつ[F]の画面下の「e-mail接続先」に指定したプロバイダーのみしか使えない点だ。ほかのプロバイダーを使うときはそのつど

本体側で接続先を切り替える必要がある。とはいえ、メッセージが受信されればハンドセットに通知が届く[I]、メッセージの一部がハンドセットで読めるのは実用的だ[J]。

メール機能スペック

モード	送受信可能文字数	タイトル: 全角15文字(半角30文字) 宛先(メールアドレス): 半角50文字 本文: 全角5000文字(半角10000文字)*1
iモードメール	添付可能ファイル種類	画像(GIF・JPEG)、メロディー(SMF)
	添付可能ファイル数	最大10件(本文と合わせて10000バイト以下)
e-mail	送受信可能文字数	タイトル: 128バイト(全角64文字) 宛先(メールアドレス): 128バイト/件(最大99件) 本文: 65530バイト(全角約32000文字程度)*1
	添付可能ファイル種類	映像(ASF)、画像(GIF・JPEG・PNG)、メロディー(SMF)、ボイス(ASF)、テキスト(TEXT)、ミュージック(MP3・MWA・ASF)
	添付可能ファイル数	最大32件(本文と合わせて512KB以下)

*1 ファイルを添付すると送受信文字数が少なくなることがある

ハンドセットの液晶表示



[G]

メニューがアイコン化されていて、表示が見やすい。



[H]

「メール」のメニューはこの3つのみ。パスワード等は本体で設定しておく。



[I]

本体を閉じた状態でメールを受信するとリモコンにこのように表示される。



[J]

送信者のアドレスや受信日時、簡単な内容がプレビュー表示できる。

7万円なら絶対買う!

電話、PDA、MP3 プレイヤーを別々に買うより安いかも?!

FOMA SH2101Vは、携帯電話の機能はもちろん、PDA機能を併せ持つ。具体的にはカレンダーや電話帳などのPIM機能だが、そのほかに動画と静止画を撮影できるデジタルカメラ、テレビ電話、音楽プレイヤーまで内蔵する万能機だ。

この機種はシャープ製ザウルスのソフトやハードのインターフェイスをベースにしているため、ザウルスユーザーが買い換えを考えている場合は、ぜひオススメしたい。また、PCまでは必要なく、気軽に持ち歩いて、なおかつ電話帳はこれ1台で管理してそのまま電話を掛けたいユーザーにも適している。さらに携帯型音楽プレイヤ

ーとしても使えるのが魅力。右のように、それぞれの製品単体の料金を仮に合計した場合と比べれば、決して高い買い物にはならないことがわかるだろう。それぞれの製品を新たに買う予定でいるのなら、このFOMA SH2101Vも選択肢に加えるのはアリだ。

けれども、数万円加えればノートパソコンに手が届くことを考えると、「あと5万円安ければ絶対買い!」というのが本音。モバイルツールとしては確かに新しいし、実用的だ。持っていて自慢できるのも確かだが、12万円で買うのはためらわれる。値下がり待っても遅くはないという感じだ。

FOMA SH2101V
新規契約: 11万8,000円
機種変更: 13万8,000円
8月5日現在

各種機器費用
1)FOMA端末(ビジュアルタイプ):約4万円
2)シャープ・ザウルス「MI-E25DC」:約6万円
音楽プレイヤー、デジタルカメラ
(総画素数35万画素、動画撮影付き、回転機構なし)搭載モデル
3)Bluetoothハンドセット、机上作業の可能なキーボードなど、その他料金計算できない機能あり
合計:約10万円+

PDA一体型「FOMA SH2101V」vs ポケットPC「musea」

違いはPC連携とビジュアル機能

NTTドコモは、ポケットPC 2002を搭載したPDA「musea」を9月6日に発売する。museaはポケットPCでありながら、複数の通信機能を持っている。携帯電話(PDCデータ通信、DoPa)、PHS、FOMAパケット通信のすべてが使えるため、ニーズやコストに合わせて通信方式を選択できる。

FOMA SH2101VがSDメモリーカードスロットを持つ一方で、museaはCF Typeスロットを搭載するため、近ごろ市販の製品が増えてきているCFカードタイプの無線LANカードも将来的に挿入できるだろう。また、OSにポケットPCを採用しているmuseaはPCとの連携もよく、さらにNTTドコモのPDA向けポータルサービス「インフォゲート」も利用できる。

FOMA SH2101Vとmuseaともに、従来PHSでしか見られなかったドコモの映

像配信サービス「M-stage visual」に対応しており、映像コンテンツを気軽に楽しめる。しかしその一方で、FOMA SH2101Vの特徴であるデジタルカメラな

どのビジュアル機能をmuseaは持たない。仕事重視で持ち歩くなら musea、遊びにも使うならFOMA SH2101Vといったところだろう。

各製品のスペック比較

FOMA SH2101V	項目	musea
		
独自OS(シャープ製)	OS	ポケットPC 2002
32ビットRISC	CPU	Intel StrongARM Processor(206MHz)
24MB(SDRAM 8MB、フラッシュメモリー16MB / ユーザーエリアは約10MB)	メモリー	ROM 32MB(フラッシュメモリー)、RAM 64MB(SDRAM、OS、プログラム実行領域含む)
320 × 240ドット 3.5型26万2144色、反射型	TFTカラー液晶	240 × 320ドット 3.5型6万5536色、反射型
ハードキーボード、タッチパネル	入力部	ソフトキーボード、タッチパネル
カレンダー連続表示で約9時間	連続動作時間 (非通信時、フロントライト消灯)	8時間以上
FOMAパケット通信、DoPa	通信方式	FOMAパケット通信、DoPa、PHS64K、PDCデータ通信
SDメモリーカード	カードスロット	CF Type II(3.3V仕様)
Bluetooth標準規格 Ver.1.1、USB	PC接続	赤外線通信ポート(IrDA Ver.1.2準拠)、USB
幅137 × 奥行98 × 厚さ25mm(閉時、突起部除く)	本体寸法	幅77.5 × 奥行130.5 × 高さ14.8mm(最薄部、突起部除く)
約280g(電池パック含む)	重さ	約180g(液晶ハードカバー除く)
11万8,000円(新規契約)	店頭価格	未定(9月6日発売)



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp